

第45週の発生動向(2005/11/7~2005/11/13)

1. 伝染性紅斑は、青森保健所管内で警報が出されました。また、水痘、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、インフルエンザなどが増加傾向にありますので、今後の動向に注意が必要です。

第45週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ					9	0.64			1	0.11			10	0.15	10
(60) 咽頭結膜熱											2	0.50	2	0.05	2
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	1.13	10	1.00	5	0.56			9	1.50			33	0.79	17
(62) 感染性胃腸炎	24	3.00	6	0.60	22	2.44	8	1.60	12	2.00	16	4.00	88	2.10	28
(63) 水痘	9	1.13	23	2.30	8	0.89	18	3.60	16	2.67	6	1.50	80	1.90	32
(64) 手足口病	1	0.13			1	0.11			3	0.50	7	1.75	12	0.29	5
(65) 伝染性紅斑	17	2.13	3	0.30	1	0.11			4	0.67			25	0.60	-1
(66) 突発性発しん	2	0.25	8	0.80	3	0.33	3	0.60	7	1.17	5	1.25	28	0.67	3
(67) 百日咳															0
(68) 風しん					1	0.11							1	0.02	0
(69) ヘルパンギーナ	3	0.38	3	0.30			1	0.20					7	0.17	1
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	5	0.63	1	0.10	2	0.22	9	1.80	2	0.33	3	0.75	22	0.52	-16
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	3	1.50			2	1.00	5	5.00	5	2.50			15	1.36	3

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	13	8	5	2	1
弘前	16	10	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

- (29) つつが虫病(四類全数把握疾患) 弘前保健所管内: 1人 (17年計 15人)
- (51) 後天性免疫不全症候群(五類全数把握疾患) 八戸保健所管内: 1人 (17年計 9人)
- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内: 6人
五所川原保健所管内: 3人 (17年計 50人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 3人 (17年計 130人)

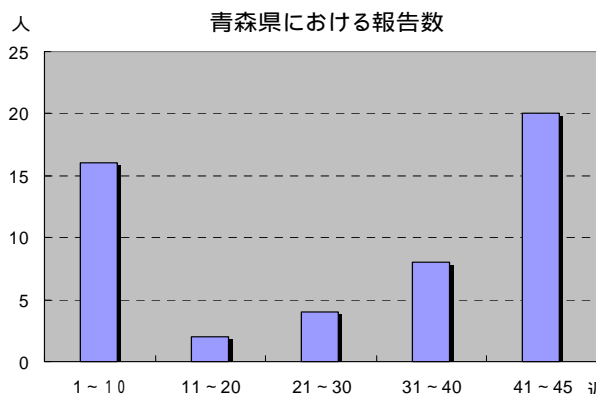
感染症の窓

RSウイルス感染症

図1 全国における定点当たりの報告数



青森県における報告数



RSV(Respiratory syncytial virus)感染症の全国における定点あたりの報告数は34週から増加傾向にあり、過去2年間より早い立ち上がりになっています(図1)。青森県でも同様の傾向が見られます(図2)。RSVの流行は、例年、11月~1月にかけて報告されていますので今後の動向に注意が必要です。

疫学: RSV感染症は母体からの移行抗体が存在するにもかかわらず、生後数週から数カ月の期間にもっとも重症な症状を引き起こします。また、生後1歳までに半数以上が罹患し、3歳までにすべての小児が抗体を獲得します。**病原体:** Paramyxovirus科のウイルスです。**臨床症状:** 潜伏期は2~8日で発熱、鼻汁などの上気道症状が数日続き、その後下気道症状(細気管支炎、肺炎)が出現してきます。乳幼児では20~50%以上の症例で下気道疾患がみられます。**感染経路:** 患者との接触感染や飛沫感染です。**治療・予防:** 対処療法が中心です。予防はワクチンが実用化されていませんのでうがい及び十分な手洗いをすることです。

<参考: IDWR 感染症の話>